

登山アドバイザーの要件として定める山岳関係の資格について

実施要綱に定める登山アドバイザーになり得る者の基準

(アドバイザーの基準)
第4条 アドバイザーとなり得る者は、学校教育活動についての知識と理解に富み、登山保険等に参加していることに加え、以下各号のいずれかに該当する者とする。
(1) 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所が主催となるセミナー及び研修会等において講師を務める者、又は過去その経験がある者
(2) 山岳競技における(公財)日本スポーツ協会公認 <u>上級指導員</u> の資格保持者
(3) (公社)日本山岳ガイド協会認定 <u>山岳ガイドステージI以上(ステージII)</u> の資格保持者
(4) (公社)日本山岳ガイド協会認定 <u>国際山岳ガイド</u> の資格保持者
(5) (公社)日本山岳ガイド協会認定 <u>登山ガイドステージI以上(ステージII、ステージIII)</u> の資格保持者
(6) 実際に本事業を活用する山において複数年の登山経験を有し、その山の特徴、危険箇所、山行についての留意事項等の専門的な知識を十分に有している者

各資格における主な活動領域等

資格名(略表記)	登山I	登山II	登山III	山岳I	山岳II	国際山岳	上級指導員(コーチII)
管理機関	日本山岳ガイド協会						日スポ協
実施要綱に定める該当基準	第5号			第3号		第4号	第2号
取得難易度	低 ←————→ 高						—
資格取得のための主な登山歴	・無積雪期登山 120日以上 ・積雪期登山 10日以上	・無積雪期登山 120日以上 ・厳冬期登山 20日以上等	・無積雪期登山 200日以上 ・積雪期登山標 高2,000m以上 を40日以上等	・無積雪期登山 300日以上 ・積雪期登山標 高2,800m以上 を10峰以上等	・無積雪期登山 450日以上 ・積雪期登山標 高3,000m以上 を10峰以上等	・山岳ガイドス テージIIでの ガイド経験1 年6ヶ月以上等	・無積雪期登山 5年以上 ・積雪期登山標 高3,000m以上 を3年以上等
可能となる活動エリア等	無積雪期における登山道でのガイド(登山地図における実線で示されたコース上)	○	○	○	○	○	・国民体育大会(スポーツクライミング競技)指導者養成講習会等の講師及び検定員等 監督業務
	四季を通じた登山道でのガイド(積雪期は森林限界を超えない日帰り可能な範囲)		○	○	○	○	
	無積雪期における容易な沢登りコースでのガイド(登山地図における破線で示されたルート上も可)			○	○	○	
	積雪期における岩稜、急峻な雪稜を持たない範囲でのガイド			○	○	○	
	通年の国内山岳と縦走路のある岩稜コースでのガイド				○	○	
	通年のポピュラーな沢登りコースでのガイド				○	○	
	国内における季節を問わない全ての山岳エリアでのガイド					○	
各国際山岳ガイド加盟諸国の山岳全エリアでのガイド					○		
派遣事業における該当人数	H30…1名 R1…0名	H30…6名 R1…6名	H30…0名 R1…0名	H30…0名 R1…0名	H30…1名 R1…0名	H30…0名 R1…0名	H30…0名 R1…1名

事業において活用した人数(R1 その他)…日本スポーツ協会公認山岳指導員(コーチI)3名、資格なし1名

平成30(2018)年度 登山アドバイザー 8名 7校 9件 事業実施(宇都宮、宇女、栃木、栃女、真岡、真女、矢板東)

令和元(2019)年度 登山アドバイザー11名 8校 17件 事業実施(宇都宮、宇女、栃木、栃女、真岡、真女、大田原、矢板東)

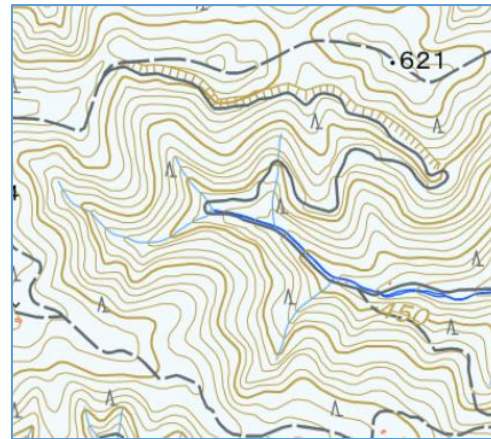
※令和2(2020)年2月17日現在

参考資料 <用語の説明>

登山地図における

実線のルート = 一般的な登山道、(ある程度以上)整備された登山道 等

破線のルート = 危険性及び難易度が高い登山道、廃道(整備されていない登山道) 等



登山地図上の実線と破線(YAMAP 公式 HP より)

尾根 = 谷と谷に挟まれた高い部分の連なり (山稜とも呼ぶ)

岩稜 = 急峻な岩の尾根



飛騨山脈の岩稜

雪稜 = 雪の尾根



谷川岳の雪稜

沢登り = 沢(谷、溪谷)を遡り、稜線に至る日本独特の登山スタイル (溪谷登攀とも呼ぶ)



沢登りの様子

森林限界 = 針葉樹林帯(亜高山帯)から低木帯(高山帯)に変わる地点
例: 北アルプス 標高2,500m 地点
北海道 標高1,500m 地点 等



高山帯に咲くミヤマキンポウゲ